

外国人生徒の県立高入試

全日制受験教科を限定

来春にも特別枠導入方針

日本語指導が必要な外国人生徒の県立高入試について、豊北欽一県教育長は18日の県会一般質問で、全日制で受験教科を限定する新たな特別枠を設ける考えを示した。主な進学先が定時制となっている現状を踏まえ「全日制の門戸を広げる必要がある。制度導入に向け、学校長や関係市町と検討していく」と述べた。辻一憲議員(民主・みらい)

日本語指導が必要な外国人への答弁。

現行の県立高入試は、帰国子女と外国人子女向けに、学力検査を国語と数学、英語の3教科に限定した特別枠を設けている。ただ、受験者は来日から2年以内の生徒に限られ、日本語指導が必要な生徒の多くは、検査が3教科の定時制に進学しているという。

県教委は早ければ、現在の中学3年生が対象となる2020年度入試から新たな特別枠を導入する方針。定時制には本年度、日本語指導が必要な10人を含め外国人生徒26人が在籍している。担当者は、都会と比べて外国人生徒の進学先の選択肢は限られているとし「他の子どもと同等に挑戦する機会を確保し、将来福井の産業界で広く活躍する人材育成につながれば」と話した。(栗原愛)